

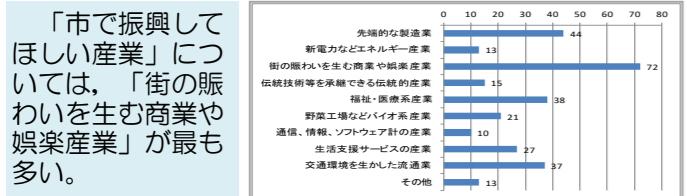
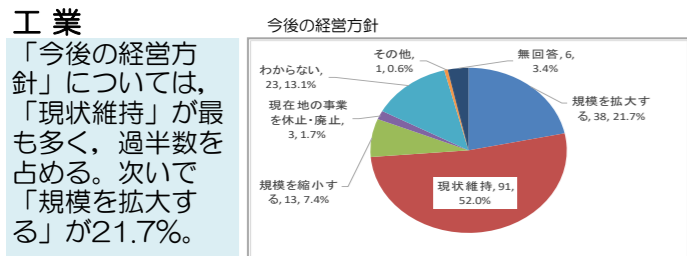
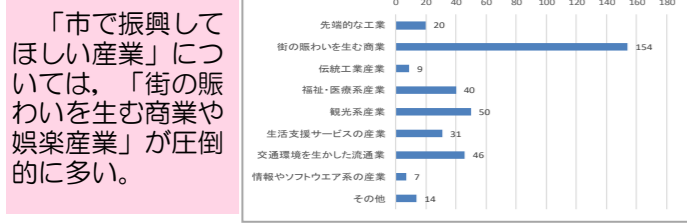
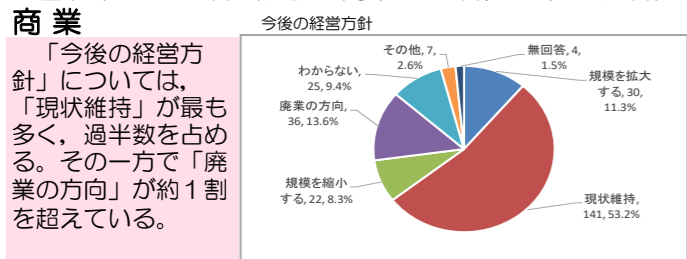
産業振興ワークショップ概要

開催日時：平成30年10月1日（月）
 参加者：商工会長、市長、商業・工業・観光分野の代表者、商工会、行政の37名
 テーマ①どんな道の駅がほしい？
 テーマ②これがかっこいいビジネスプラン
 6班に分かれ、テーマ①、②について、意見を出し合い、発表・投票を行いました。

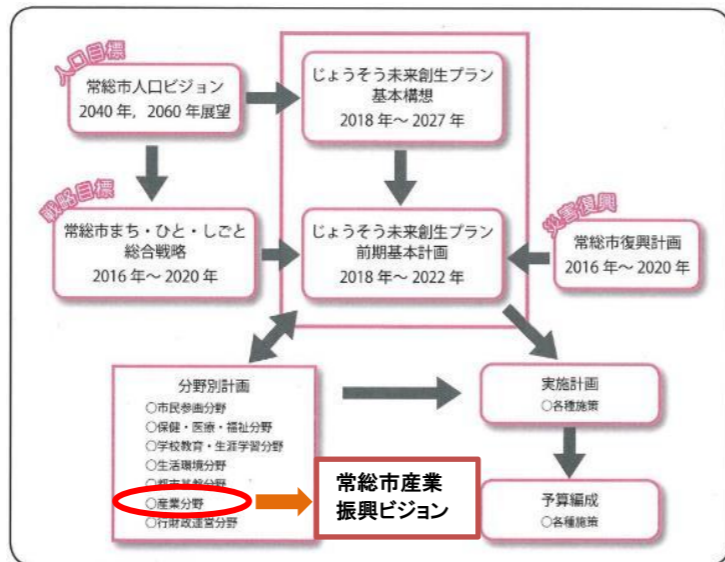


アンケート結果概要

概要
 (1) アンケートの対象
 商工会、工業懇話会の会員事業者 計1,603社
 (内訳：商業914社、工業689社)
 (2) アンケートの実施期間
 平成30年7月30日（月）～8月29日（水）
 (3) 回収率
 回収数：441件（内訳：商業265件、工業176件）
 回収率：27.5%（内訳：商業28.9%、工業25.5%）



じょうそう未来創生プランの実現に向けて 一本計画の位置づけと役割



産業振興ビジョンは、じょうそう未来創生プランを具現化するためのアクションプランです。アクションプランとは、目的に向けて、「いつまでに」「何を」「どうするか」を定め、具体的な方向性を示すものです。

じょうそう未来創成プラン前期基本計画 及び施策の方向性

施策	施策の方向性
商業の振興	・地域商業の振興 ・中心市街地の活性化
工業の振興	・経営基盤の強化への支援 ・工業団体などと連携推進
企業誘致	・企業誘致促進 ・優遇制度の整備
地場産業	・地場製品の販売促進 ・交流施設との連携
フィルムコミッション	・ロケーション支援体制の強化
観光	・観光振興体制の強化 ・観光資源の整備 ・観光企画の強化

施策	施策の方向性
雇用・就労環境	・地域課題に対応する企業活動の支援 ・雇用・流用の安定 ・勤労者福祉の充実
農商工連携	・常総IC周辺地域整備事業の推進

計画期間

5年先の将来を見据えながら、4分野における施策目標達成のため、1、2年先までに実行する【短期計画】と概ね5年先までに実行する【中長期計画】で構成し、計画期間は2019年度～2023年度までとします。
 各項目については、個別に計画期間を定め、分析・見直しを行いながら、確実に実行します。

常総で稼ぐ！

常総市産業振興ビジョン 2019>>>2023

概要版



元号が「平成」から「令和」に変わる新たな時代の幕開けのとき、常総市のこれからの産業の指針「産業振興ビジョン」を策定しました。
 この産業振興ビジョンは、時代とともに変革する社会の中で、常総市の産業をイノベーションしていくための基本的な考え方をまとめたものです。

この産業振興ビジョンでは、「常総で稼ぐ！」をテーマに、産業に関わる方のみならず、高校生や大学生とのワークショップやアンケート調査を実施するなど、新たな産業の方向性を多くの方と共に検討し策定してまいりました。市内の産業をイノベーションするためには、市民の皆さまや企業の皆さまと共に考え、共に新たな価値を創造し、共に取り組んでいくことが重要ですので、今後も皆さまと対話し、産業振興に繋がっていききたいと思います。

結びに、産業振興ビジョンの策定にあたり、貴重なご意見をお寄せいただいた多くの皆様をはじめ、産業振興ビジョン策定委員の皆様にご心からお礼申し上げます。

令和元年5月

常総市長

神辺岳志

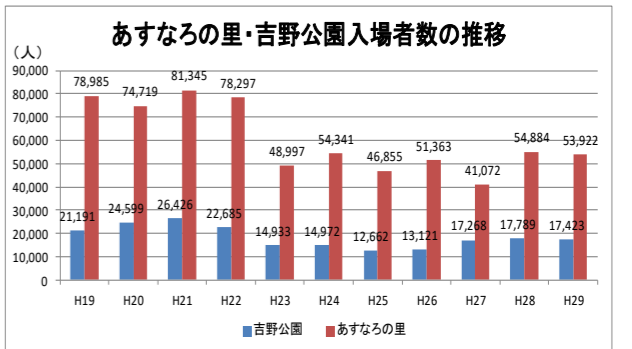
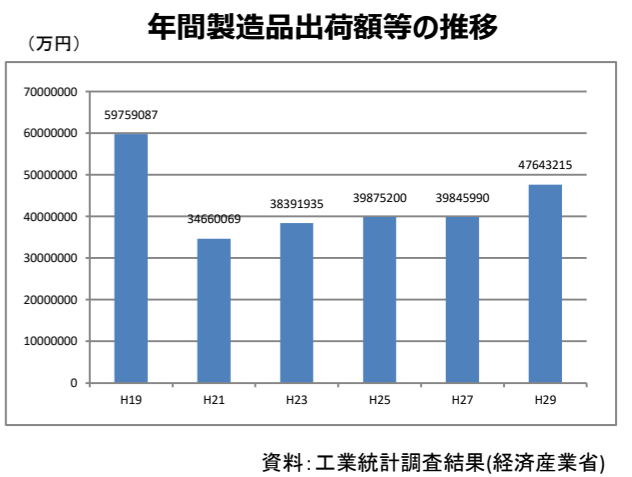
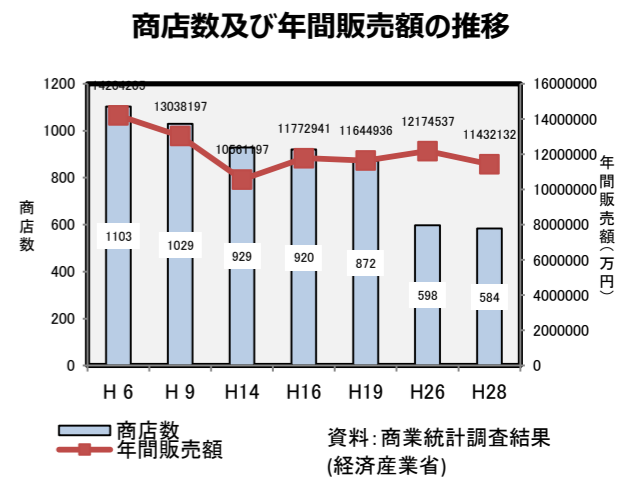
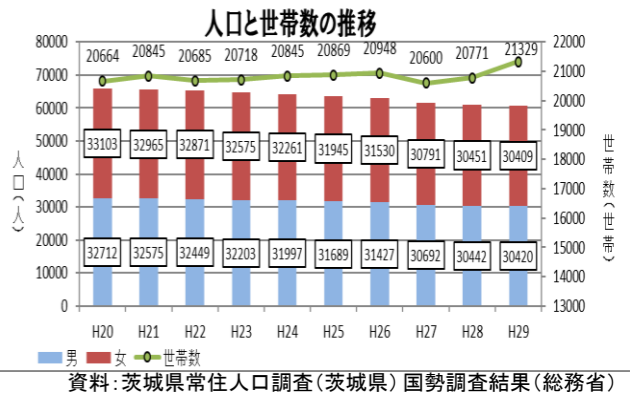
統計からみる常総市

市

商業

工業

観光



商業で稼ぐ

観光で稼ぐ

施策目標	中長期計画 / 2023年度まで 空き店舗を活用する 取組▶ 空き店舗を改装して、コミュニティカフェ・ギャラリースペース・チャレンジショップとして利用する。 効果▶ 市民が集い、アイデアをカタチに出来る場を検討する。活性化の中核として位置づけ、創業機運の醸成を図る。
	短期計画 / 2020年度まで 新商品を開発する 取組▶ 新商品開発までのプロセスを学ぶため、セミナーや専門家派遣事業等を利用する。 効果▶ 新商品・新サービスの開発により、顧客獲得や販路の拡大ができる。異業種間での連携によるコラボレーション商品の開発など新しい可能性を探る。
	販売方法を見直す 取組▶ 社会に対応したサービスのカタチとして「来る」から「出向く」サービスを行う。 効果▶ 高齢化に伴う顧客離れを防ぐ。ニーズに合致し、新たな市場を獲得することができる。
	シャッターを見直す 取組▶ シャッターを開けて、店内に営業当時の写真を飾ったり、機械の展示を行う。シャッターには当時の様子が感じられる絵を描く。 効果▶ 営業当時を知る人が立ち寄り、思い出に浸ることができる場所を提供し、子どもたちが当時を知り、歴史ある商店街を学ぶ機会を創出する。世代を超えた交流が生まれ、商店街やものづくりへの興味を喚起する。
	商店街の仕事を知る 取組▶ 職場体験やものづくり体験を行う。 効果▶ 若い世代が「商売」を知り、親しむことで、潜在的創業者を呼び起こし、まち全体で創業機運の醸成を図る。

年間販売額7%の増	イベントの定着を図る 取組▶ 朝市や街バル、ごはん市などイベントを定期的に開催する。イベント終了後には反省会を行い、さらに満足度の高いイベントにする。イベント時に自店PRカードを配布するなどの取組を行う。 効果▶ イベントをPRの場として利用し、新規顧客の獲得、定着化を図る。
	空き店舗を調査する 取組▶ 空き店舗の持ち主へ意向調査を継続して実施する。また新たに、地権者や営業店舗に対し、余剰スペースの貸出について意向調査を実施する。 効果▶ 実状に即し、調査を深堀することで、利活用の可能性を拡げる。
	創業を支援する 取組▶ 「常総創業塾」「ビジネスプランコンテスト」「空き店舗調査」を三位一体で取り組み、創業者を支援する。 効果▶ 新しい店舗を市全体で応援し、街の活性化を図る。
	中長期計画 / 2023年度まで 産業集積エリアを拡大する 取組▶ 現地調査を行い、産業集積エリアの検討を行う。 効果▶ 新たな企業立地の受け皿を確保し、さらなる企業誘致により、雇用の創出及び経済の活性化を図る。
	短期計画 / 2020年度まで 海外進出を支援する 取組▶ (独)日本貿易振興機構(JETRO)主催の説明会を常総市で開催する。 効果▶ 企業の要望に応えられるよう、海外進出における基礎知識や情報収集、海外事業計画の策定支援などについて、説明会や専門家による個別相談を実施し、支援する。

工業で稼ぐ

施策目標	2023年度まで / 中長期計画 案内表示を魅せる 取組▶ 人を惹きつける案内表示を設置する。また、VRなどの体験型の案内を検討する。 効果▶ ストーリーがわかる魅力的な案内表示で、さらに名所の魅力を知ってもらう。VRの導入により、小学生向けの案内や多言語への対応など、ニーズに合わせた説明ができるような仕組みを検討する。
	2020年度まで / 短期計画 千姫まつりを国際的なまつりにする 取組▶ 江戸時代にタイムスリップしたような演出(結城紬の貸衣裳、行列参加等)で、他に類を見ないまつりにする。またインバウンドに対応し、案内表示や通訳など、多言語で対応する。 効果▶ 弘経寺、坂野家住宅などの歴史ある建造物とあわせてPRを行い、国内外問わず集客を図る。
	歴史を学ぶ 取組▶ 「常総市の歴史を語る人」を育成し、歴史を直接見て、聞いて、学ぶことができる環境をつくる。 効果▶ 「常総市の歴史を語る人」を案内役としたツアーの実施や学校行事へ組み込み、市内外に市の魅力を発信する。
	「ふらっと294」を広める 取組▶ 観光促進アプリ「ふらっと294」のダウンロード数を増加させるためPRを行う。コンテンツの充実を図る。 効果▶ スタンプラリー機能により、観光名所や商店街を巡ってもらい、さらにリピーターを獲得する。
	ロケ地をめぐる 取組▶ ロケ地めぐりツアーを開催する。 効果▶ 「ロケの街 常総」を多くの人に知ってもらう。映画・ドラマのファンをターゲットとし、裏話を聞きながら、市内の各店をめぐるツアーを開催することで、交流人口を拡大する。

年間入場者数30%の増	2023年度まで / 中長期計画 今ある施設の魅力を発信する 取組▶ あすなろの里や吉野公園といった集客施設の魅力を最大限に発信する。 効果▶ 情報発信、展示方法や案内表示について研究し、改善することで、さらなる集客を図る。
	情報発信機能を活用する 取組▶ 道の駅を活用し、市の魅力をPRする方法や市内へ人を呼び込むしきみを検討する。 効果▶ 「市内案内カード」や「デジタルサイネージ」等を設置し、道の駅を訪れた方が市内の名所や商店街に訪れるしきみをつくる。
	市内企業を紹介する 取組▶ 道の駅の集客や立地を活用し、市内企業や工場を紹介するブースを設置することにより、マッチングを図るしきみを検討する。 効果▶ 「デジタルサイネージ」等を利用し、道の駅を訪れた方へ市内の企業情報を発信することができる。
	自転車でまちを巡る 取組▶ 鬼怒川にサイクリングロードの整備を検討し、豊かな自然や名所を自転車で巡る。 効果▶ 鬼怒川改修工事とともに整備する管理用通路等をサイクリングロードとして活用し、周遊性の向上が図られる。「タウンスポット」としてまちなかの資源を紹介し、サイクリングロードからまちを巡るしきみ、水辺とまちのネットワーク化を検討する。

【道の駅基本構想】

市では、「基幹産業である農業を活かした新たな産業拠点」「交流人口の拡大」「市の魅力の発信」「防災機能の向上」を目的に、ワークショップの手法を用いて、市民協働で道の駅の整備を検討する。産業振興においては、道の駅だけの集客にとどまらず、その集客や情報発信機能を活用し、商店街・地域企業との連携や市内の観光資源を活かしたレンタサイクルなどの新たな取組を検討し、相互につながるネットワークを形成することで、地方創生に向けた拠点づくりを目指す。2022年度末の開業を予定している。

道の駅×産業で稼ぐ

今ある資源を
最大限に活かし
協働で新しい価値を見出す
常総市は
まだまだたくさんの
可能性を秘めています

—常総で稼ぐ—

そんな
まちづくりを提案します

年間入場者数30%の増

連携するしきみを検討

施策目標